

# 口永良部島噴火に係る関係省庁災害対策会議（第3回）

## 議 事 次 第

日時：平成27年5月30日（土）17:00～

場所：合同庁舎8号館3階 災害対策本部会議室

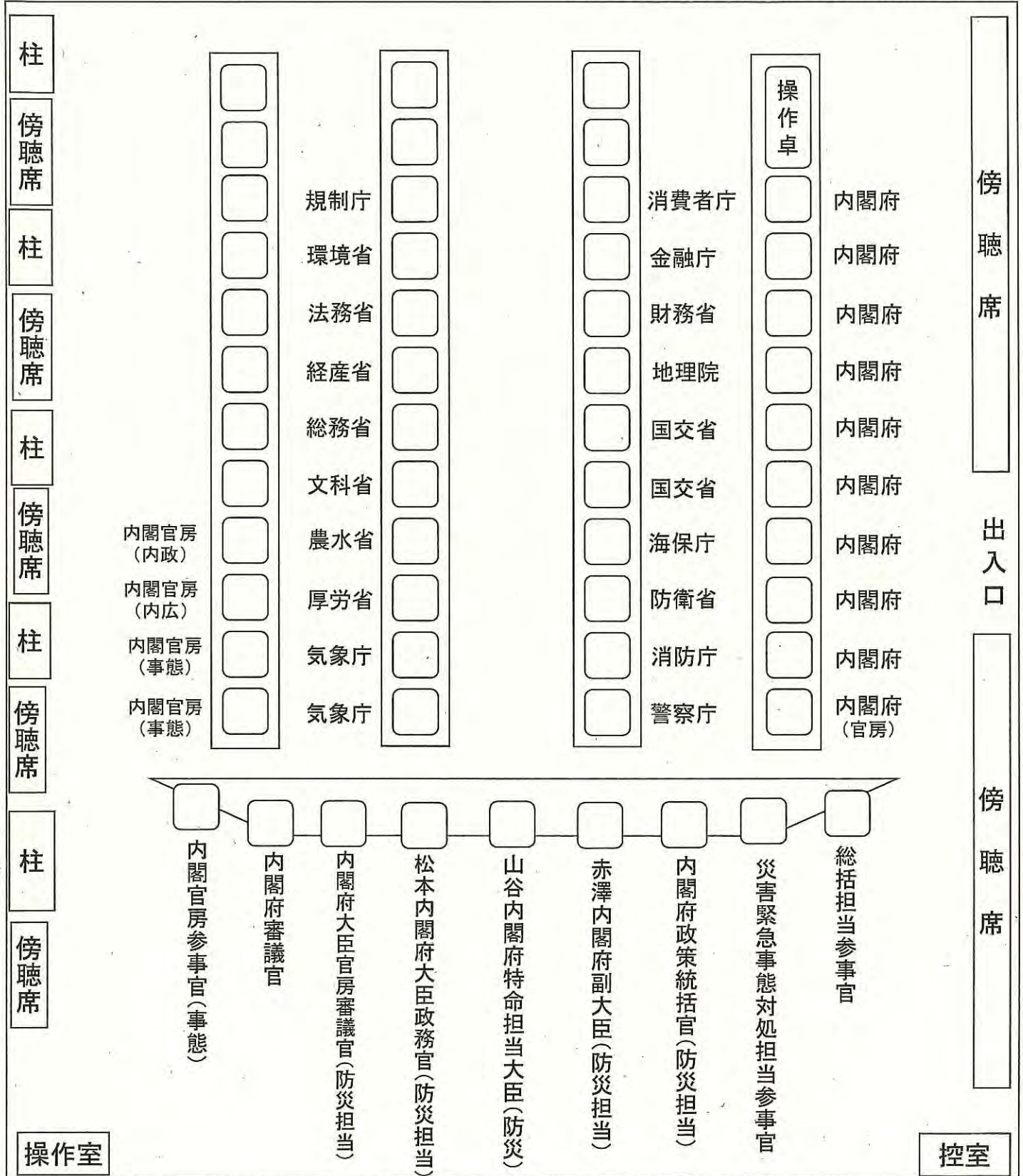
1. 山谷内閣府特命担当大臣（防災）挨拶
2. テレビ会議（鹿児島県庁、屋久島町役場）
3. 赤澤内閣府副大臣からの政府調査団調査報告
4. 今後の火山活動の見通し
5. 各省庁の対応状況
6. その他

# 口永良部島の噴火に係る関係省庁災害対策会議(第3回)

## 配席図

平成27年5月30日(土) 17:00~

中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室





平成27年5月30日  
内閣府（防災担当）

## 口永良部島の噴火に係る政府調査団派遣報告

### 1 概要

5月29日に発生した口永良部島<sup>くちのえらぶ</sup>の噴火に伴い、被害状況及び現地の対応状況等を把握するため、政府は赤澤内閣府副大臣を団長とする政府調査団を鹿児島県に派遣し、口永良部島新岳<sup>くちのえらぶ</sup>の噴火状況を上空より調査するとともに、被災自治体の首長等と意見交換を行いました。

### 2 調査日

平成27年5月29日（金）～平成27年5月30日（土）

### 3 調査先（※別紙1参照）

鹿児島県

### 4 編成（※別紙2参照）

赤澤内閣府副大臣以下9名

### 5 調査の概要（※別紙3参照）

- ・29日（金）、鹿児島県へ派遣された調査団は、二班に分かれ、赤澤内閣府副大臣以下5名は鹿児島県庁到着後、鹿児島県知事等から被害状況等の説明を受け、意見交換を行い、連携を図りました。

また、屋久島町へ派遣された調査団4名は、屋久島町役場に到着後、政府現地連絡調整室を設置しました。（16時30分）

- ・30日（土）、自衛隊のヘリコプターにより上空から口永良部島新岳<sup>くちのえらぶ</sup>の火口付近の様子等を調査しました。屋久島町役場宮之浦支所において、屋久島町長等から被害状況等の説明を受け、意見交換を行い、要望を伺いました。

また、屋久島町宮之浦地区の宮之浦公民館において、避難されている方のお気持ちなども伺いました。

## 口永良部島の噴火に係る政府調査団 行程

## 【5月29日（金）】

出発	到着	
	13:40	鹿児島空港 着
	14:40	鹿児島県庁 着
		・被害状況等説明
		・意見交換

## 【5月30日（土）】

出発	到着	
7:00		マリポートかごしま 発
		・上空視察
	8:07	屋久島空港 着
	8:20	屋久島町役場宮之浦支所 着
		・被害状況等説明
		・意見交換
	9:00	避難所 訪問
	9:30	屋久島空港 着
9:55		屋久島空港 発
	10:30	鹿児島空港 着
10:50		鹿児島空港 発

## 政府調査団名簿(鹿児島県)

	省庁名	官 職	氏 名	よみがな
1	内閣府	内閣府特命担当副大臣(防災)	赤澤 亮正	あかざわ りょうせい
2	内閣府	内閣府大臣官房審議官(防災)	兵谷 芳康	ひょうたに よしやす
3	内閣府	政策統括官(防災担当)付参事官(調査・企画担当)	名波 義昭	ななみ よしあき
4	内閣府	政策統括官(防災担当)付参事官(総括担当)付企画官	馬場 純郎	ばば じゅんろう
5	内閣府	政策統括官(防災担当)付参事官(災害緊急事態対処担当)付企画官	藤條 聡	とうじょう さとし
6	内閣府	政策統括官(防災担当)付参事官(災害緊急事態対処担当)付参事官補佐	小野 晃	おの あきら
7	内閣府	政策統括官(防災担当)付参事官(災害緊急事態対処担当)付参事官補佐	日高 良一	ひだか りょういち
8	内閣府	政策統括官(防災担当)付参事官(災害緊急事態対処担当)付主査	荒木 博和	あらか ひろかず
9	内閣府	政策統括官(防災担当)付参事官(普及・啓発担当)付	中丸 琢哉	なかまる たくや

# 口永良部島の噴火に係る 政府調査団の現地調査概要



29日 鹿児島県知事との意見交換の様子  
【鹿児島県庁】



30日 口永良部島上空視察①



30日 口永良部島上空視察②



30日 屋久島町長等の意見交換の様子  
【屋久島町役場宮之浦支所】



30日 避難されている方への聞き取りの様子  
【宮之浦公民館】



30日 調査後、取材に対応する赤澤副大臣  
【宮之浦公民館】

# 1 気象庁

## 口永良部島の火山活動について

平成 27 年 5 月 30 日

16 時 15 分 現在

気 象 庁

### 1 火山活動と気象の概要

#### (火山活動の概要)

- ・新岳では、5月29日09時59分に爆発的噴火が発生。
- ・この噴火により、噴煙が火口縁上9,000m以上まで上がった。また、火砕流が発生し、新岳火口の南西側から北西側（向江浜地区）方向の海岸まで達した。
- ・5月30日16時15分現在、噴煙状況は天候不良のため不明。震動データ等から噴火は5月30日10時50分頃に停止したと考えられる。
- ・口永良部島で噴火が発生したのは、平成26年8月3日以来。
- ・5月29日午後、九州地方整備局の協力により気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した上空からの観測では、火砕流は新岳火口からほぼ全方位に流れており、特に北西方向でははっきりと確認。また、火口の東側で火山灰を確認。
- ・5月30日朝に鹿児島県の協力により気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査では、新岳の南西側斜面と古岳の南東側斜面で樹木の変色域を確認。新岳から向江浜地区にかけての新岳北西側の斜面では、海岸付近の近傍にいたるまで、樹木が一樣に下流側に倒れているのを確認。

#### (気象概況)

- ・前線を伴った低気圧が、今日30日夜に九州南部を通過する見込み。この影響で、種子島・屋久島地方を中心に1時間40ミリの激しい雨の降るおそれ。明日31日12時までの24時間に予想される雨量は100ミリの見込み。今日30日夕方から明日31日明け方まで、落雷や突風、急な強い雨に注意。

### 2 気象庁の対応

- ・口永良部島の火山活動状況について、地震計、空振計、傾斜計、遠望カメラ等の観測ネットワークにより24時間体制で監視している（常時観測火山）。
- ・火山活動状況については、昨年8月の噴火以降、毎日地元自治体に提供
- ・気象庁は本年3月24日に火映を観測して以降、現地に機動調査班（JMA-MOT）を常駐させ、新岳の活動状況や表面現象等の変化について詳細な調査を実施するとともに、地元自治体への情報提供を強化。
- ・5月23日08時00分には震度3の有感地震が発生し、10時45分に臨時の解説情報を発表。同日、口永良部島火山防災連絡会コアグループ会議に参加、現地にて住民説明会を実施。これを受けて、地元自治体において避難体制を確認。
- ・5月29日10時07分 噴火警報（居住地域）を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規

- 制) から5 (避難) に引き上げ。同時刻、気象庁本庁非常体制
- ・噴火警報等を発表するとともに、地元自治体をはじめ、関係機関に対する解説及び資料の提供を適宜実施
  - ・火山活動状況に関して記者会見 (5月29日11時30分)
  - ・九州地方整備局の協力により、気象庁機動調査班 (JMA-MOT) が上空からの観測を実施 (5月29日11:10)
  - ・鹿児島県災害対策本部会議に出席 (5月29日～)
  - ・鹿児島県、屋久島町、及び関係機関に対して、気象支援資料を提供 (5月29日～、1日3回 (毎日5時、11時、17時頃) の提供)
  - ・屋久島町役場において職員2名が政府現地連絡調整室と連携し対応 (5月29日～)
  - ・鹿児島県庁において職員2名が災害対応支援及びリエゾン活動を実施 (5月29日～)
  - ・気象庁ホームページに口永良部島噴火に関するポータルサイトを開設 (5月29日～)
  - ・鹿児島県の協力により、気象庁機動調査班 (JMA-MOT) が上空からの観測を実施 (5月30日06:40)

#### 【噴火警報等の発表状況】

- ・平成26年8月3日 噴火警戒レベル3 (入山規制) を発表
- ・平成27年5月23日 震度3の地震が発生し、臨時の解説情報を発表
- ・5月29日10:07 噴火警報 (居住地域) を発表し、噴火警戒レベルを3 (入山規制) から5 (避難) に引き上げ
- ・5月29日10:09 降灰予報 (速報) を発表、10:25、11:00 降灰予報 (詳細) を発表
- ・5月29日10:13 航空路火山灰情報 (噴煙高度FL320以上) を発表 (以降随時発表)
- ・5月29日10:40 火山の状況に関する解説情報 (第44号) 発表
- ・5月29日16:00 火山の状況に関する解説情報 (第45号) 発表
- ・5月29日17:00 降灰予報 (定時) を発表開始 (以後3時間おきに発表)
- ・5月29日21:50 火山活動解説資料を発表 (上空からの観測結果)
- ・5月30日10:00 火山の状況に関する解説情報 (第46号) 発表
- ・5月30日16:15 火山の状況に関する解説情報 (第47号) 発表

### 3 気象庁の今後の対応 (5月30日16時15分現在)

- ・火山の状況に関する解説情報を当面10時と16時の1日2回発表予定
- ・口永良部島の火山活動等について検討を行うため、火山噴火予知連絡会拡大幹事会を開催し (5月30日15時～)、見解を発表 (同日18時頃) 予定
- ・屋久島町役場において職員2名が政府現地連絡調整室と連携し対応中
- ・鹿児島県庁において職員1名が災害対応支援及びリエゾン活動を実施中
- ・九州地方整備局の協力により、気象庁機動調査班 (JMA-MOT) が上空からの観測を実施予定。



## 口永良部島の火山活動解説資料

福岡管区気象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方気象台

＜噴火警戒レベル3（入山規制）を噴火警戒レベル5（避難）に上げました＞

口永良部島で、本日（29日）09時59分に爆発的噴火が発生しました。この噴火に伴い発生した火砕流<sup>1)</sup>が、新岳の南西側から北西側（向江浜地区）にかけて流下し、北西側では海岸まで達したのを本村西の遠望カメラで確認しました。噴煙は黒灰色で、火口縁上9,000m以上に上がりました。また、火口周辺に噴石が飛散しているのを確認しました。噴火は現在も継続しており、噴煙が火口縁上1,200mまで上がっています。

本日（29日）、気象庁機動調査班（JMA-MOT）は国土交通省九州地方整備局の協力を得て、口永良部島上空からの観測を実施しました。その結果、火砕流は新岳火口からほぼ全方位に流れており、特に北西方向でははっきりと確認できました。また、火口の東側で火山灰を確認しました。

今後も、爆発力が強い噴火や規模の大きな噴火が発生する可能性があります。

火砕流の到達が予想される屋久島町口永良部島の居住地域では、嚴重な警戒（避難などの対応）をしてください。

**【防災上の警戒事項等】**

火砕流の流下が切迫している居住地域では、嚴重な警戒（避難などの対応）をしてください。

屋久島町の避難などの指示に従ってください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

## ○ 活動概況

## ・ 表面現象の状況（図1～7、図8-①④）

口永良部島で、本日（29日）09時59分に爆発的噴火が発生しました。この噴火に伴い発生した火砕流が、新岳の南西側から北西側（向江浜地区）にかけて流下し、北西側では海岸まで達したのを確認しました。噴煙は黒灰色で、火口縁上9,000m以上に上がりました。また、火口周辺に噴石が飛散しているのを確認しました。噴火は現在も継続しており、噴煙が火口縁上1,200mまで上がっています。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所および屋久島町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』『基盤地図情報』『基盤地図情報(数値標高モデル)』を使用しています(承認番号:平26情使、第578号)。

本日、気象庁機動調査班（JMA-MOT）は国土交通省九州地方整備局の協力を得て、口永良部島上空からの観測を実施しました。その結果、13時頃は乳白色の噴煙が火口縁上500mまで上がり、雲に入っていました。15時頃は乳白色の噴煙が200mまで上がり、西に流れていました。新岳の火口内は噴煙のため確認できませんでした。

火砕流は、北西方向は向江浜の海岸まで到達しており、向江浜付近の海域に濁った変色域がありました。北西方向の谷筋には流下方向に倒木した痕跡がありました。南西方向にも谷筋に沿って流れていましたが、倒木などは不明です。

火口周辺には大きな噴石がありました。

赤外熱映像装置<sup>2)</sup>では、新岳の北西から南西にかけての7合目付近まで火砕流の痕跡と考えられる熱異常域を確認しました。

火口の9合目付近までの全方位に降灰を確認しました。火口の南東側は特に顕著でした。

古岳では、数箇所噴気が上がる程度で、特段の変化はありませんでした。

#### ・地震や微動の状況（図8-②⑤⑥、図9、図10）

B型<sup>3)</sup>の火山性地震は、19日頃からやや増加していました。5月23日08時00分に、島内のごく浅いところを震源とする地震（M2.3：暫定値）が発生し、島内で震度3を観測しました。その直後にA型<sup>4)</sup>の火山性地震が一時的に増加しました。

29日09時59分の噴火に伴って、振幅の大きな地震が発生し、新岳北東山麓観測点（新岳の北東約2.3km）に設置している空振計では、最大で62.2Pa以上で振り切れの空振を観測しました。また、本村東観測点（新岳の北西約2.8km）の空振計では、13.9Paの空振を観測しました。火山性地震は噴火後から20時までに190回（速報値）発生しています。

この噴火に伴って、約14分間の火山性微動が発生しています。

#### ・地殻変動の状況（図11）

新岳北東山麓観測点に設置している傾斜計では、09時59分の噴火に伴って火口方向が下がる傾斜変動が観測されました。

- 1) 火砕流とは、火山灰や岩塊、空気や水蒸気が一体となって急速に山体を流下する現象です。火砕流の速度は時速数十kmから数百km、温度は数百にも達することがあります。
- 2) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 3) 火山性地震のうち、相が不明瞭で、比較的周期が長く、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震で、火道内のガスの移動やマグマの発泡などにより発生すると考えられています。
- 4) 火山性地震のうち、P波、S波の相が明瞭で比較的周期の短い地震で一般的に起こる地震と同様、地殻の破壊によって発生していると考えられ、マグマの貫入に伴う火道周辺の岩石破壊によって発生していることが知られています。

国土交通省災害対策ヘリコプターはるかぜから撮影



2015年5月29日12時51分

図1 口永良部島 前田・向江浜地区の状況（5月29日12時51分）

向江浜地区では、火砕流の痕跡を確認しました。

国土交通省災害対策ヘリコプターはるかぜから撮影



2015年5月29日12時57分

図2 口永良部島 新岳火口付近の状況（5月29日12時57分）

火口の9合目付近まで火山灰の堆積を確認しました。



図3 口永良部島 新岳北西側の状況（5月29日14時57分）  
新岳火口付近から向江浜付近の海岸まで、火砕流の痕跡を確認しました。



図4 口永良部島 新岳北西斜面の状況（5月29日15時05分）  
新岳火口の北西斜面では、火砕流によると考えられる倒木等を確認しました。

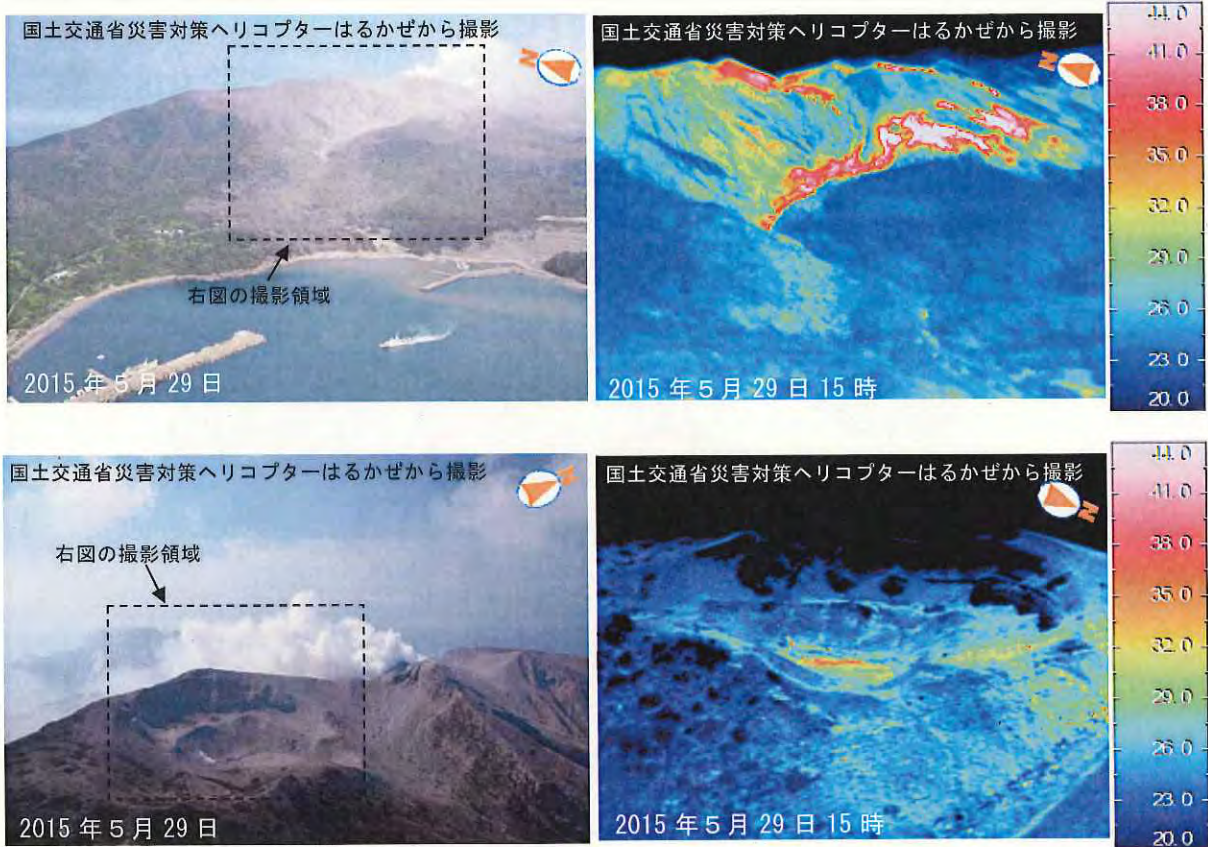


図5 口永良部島 新岳火口付近の地表面温度分布

- ・新岳火口周辺で、火砕流の痕跡と考えられる熱異常域を確認しました。
- ・古岳付近では、特段の変化はありませんでした。

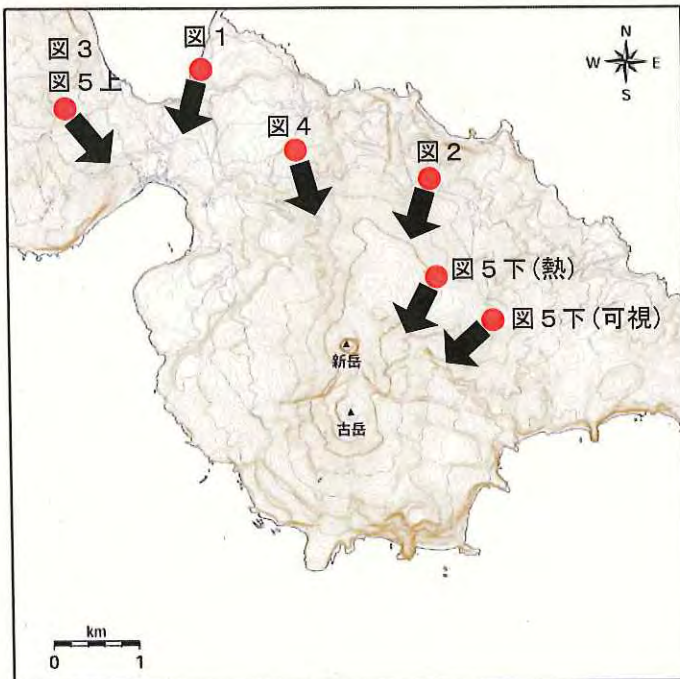


図6 口永良部島 写真撮影位置図 (矢印は撮影方向を示す)

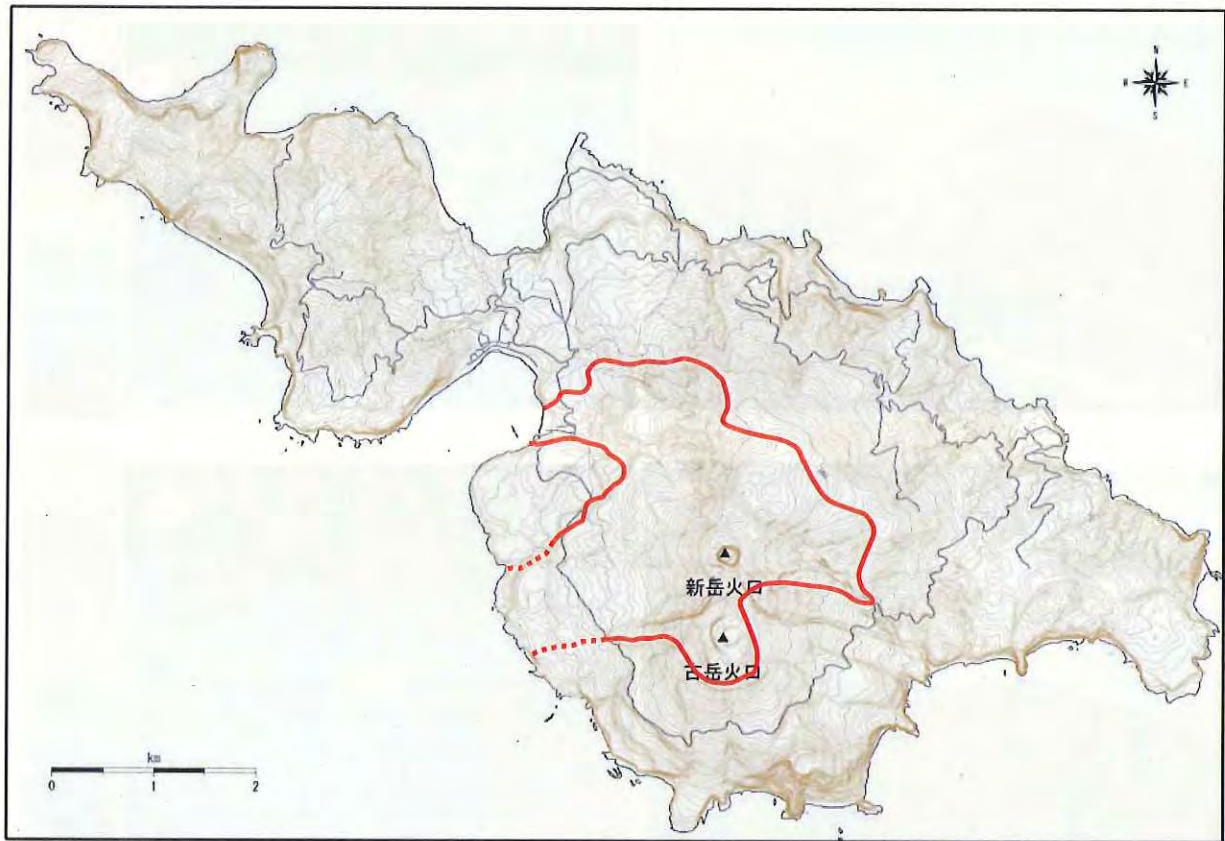


図7 口永良部島 火砕流の流下範囲

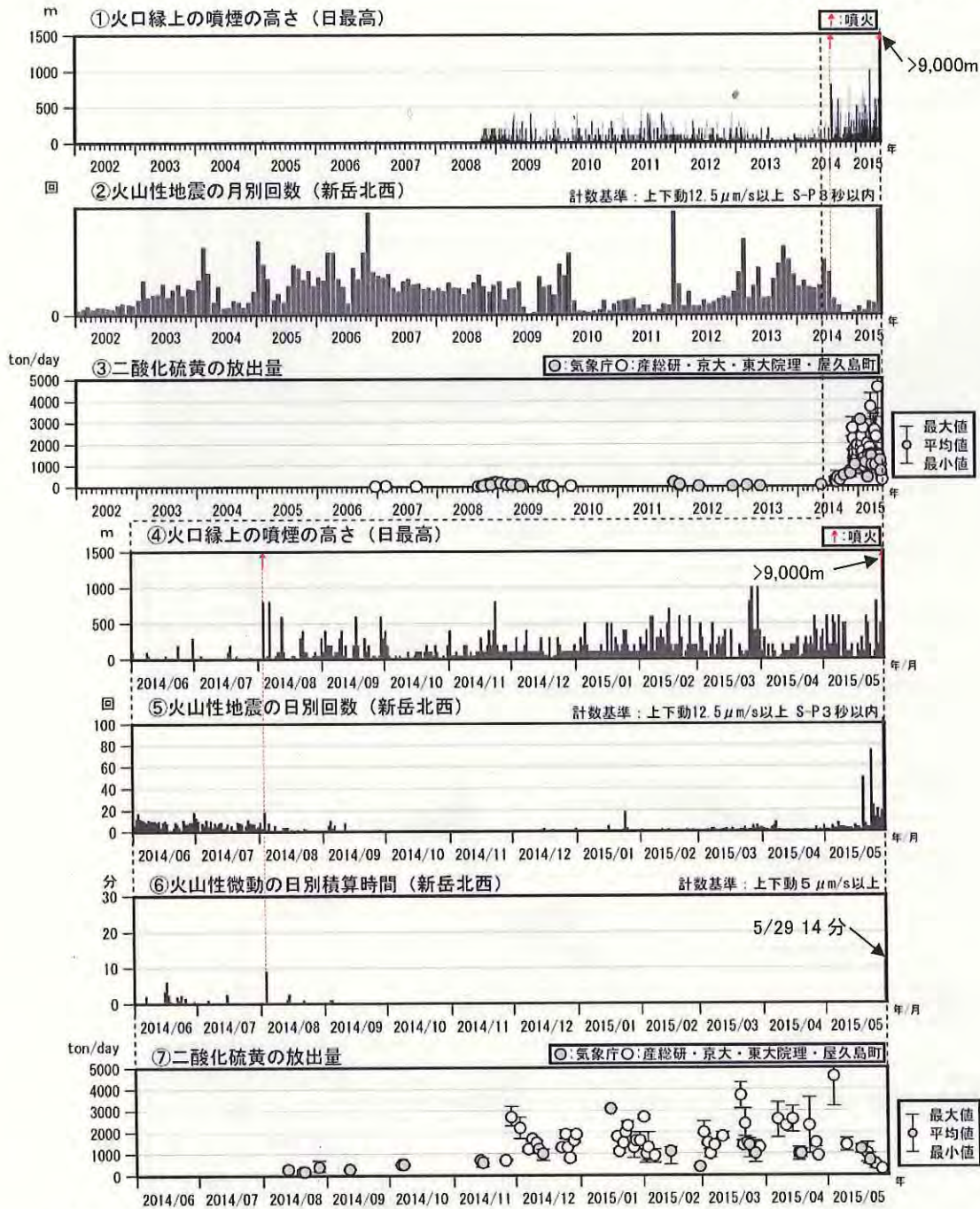


図 8 口永良部島 火山活動経過図 (2002 年 1 月～2015 年 5 月 29 日)

- ・火山性 B 型地震は、19 日頃からやや増加していました。
- ・5 月 23 日 08 時 00 分に、島内のごく浅いところを震源とする地震 (M2.3 : 暫定値) が発生し、島内で震度 3 を観測しました。その直後に火山性 A 型地震が一時的に増加しました。
- ・29 日 09 時 59 分の噴火に伴って、振幅の大きな地震が発生しました。
- ・火山性地震は噴火後から 20 時まで 190 回 (速報値) 発生しています。
- ・この噴火に伴って、約 14 分間の火山性微動が発生しています。
- ・二酸化硫黄の放出量は昨年 (2014 年) 11 月頃から多い状態で経過していましたが、5 月下旬は 1 日あたり 1,000 トン以下と、それまでより減少しています。

※2014 年 8 月 3 日の噴火により、火口周辺の観測点が障害となったため、噴火以降 (図中赤破線後) は新岳火口から約 2.3km にある新岳北東山麓観測点で計数しており、検知力が低下しています。  
 ※2015 年 5 月 23 日に発生した島内のごく浅いところを震源とする地震 (震度 3、M2.3 : 暫定値) が発生したことから、監視を強化するため、5 月 1 日さかのぼって計数基準を見直しています。

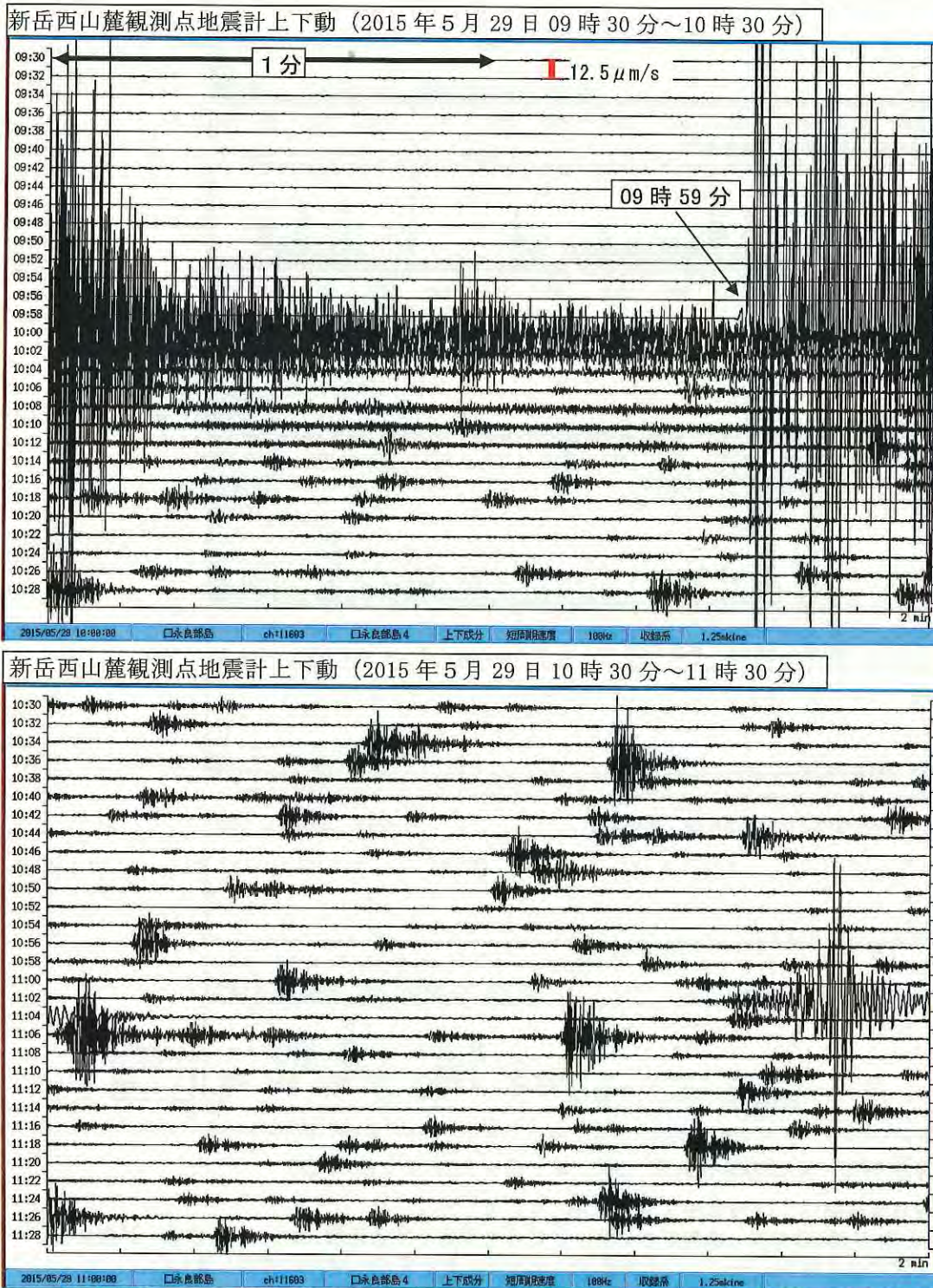


図9 口永良部島 噴火時の地震波形 (5月29日09時30分~11時30分)  
新岳西山麓観測点 (地震計: 上下動)

- ・29日09時59分の噴火に伴って、振幅の大きな地震が発生しました。
- ・その後も地震は時々発生し、噴火後から20時までに190回(速報値)発生しています。



新岳北東山麓観測点空振計 (2015 年 5 月 29 日 09 時 30 分~10 時 30 分)

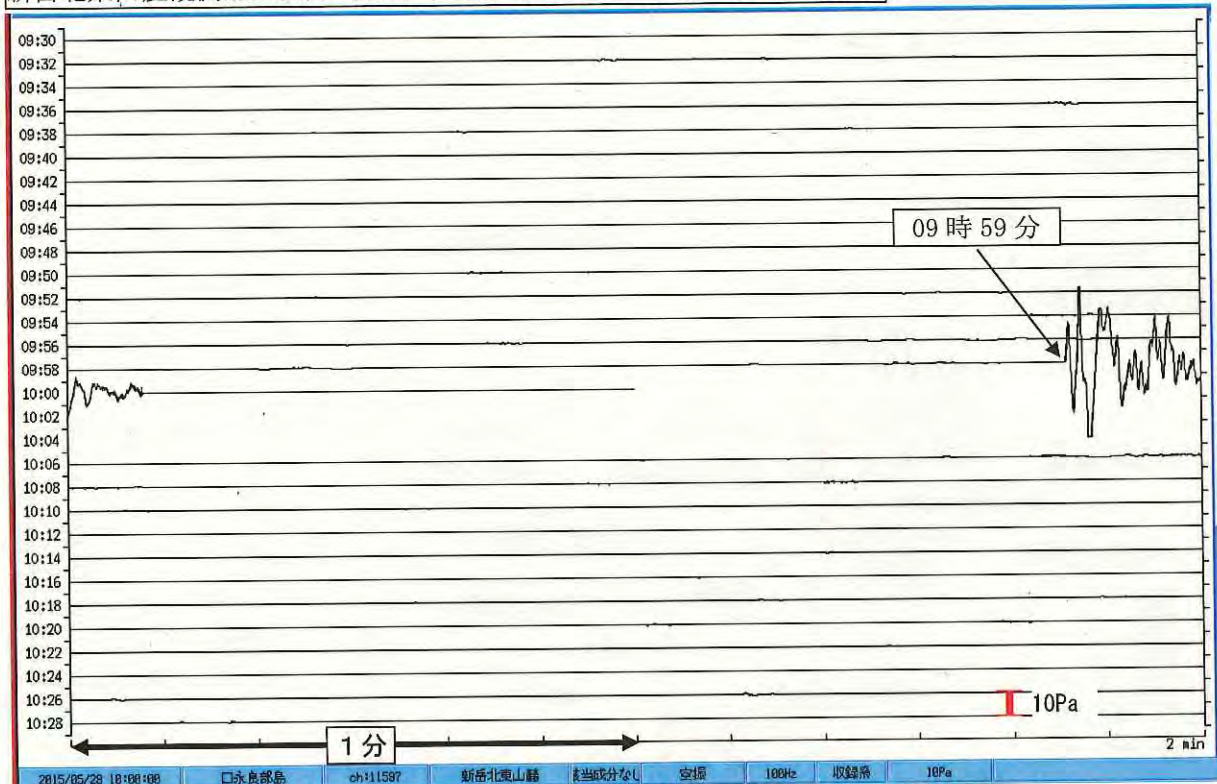


図 10 口永良部島 噴火時の空振波形 (5 月 29 日 09 時 30 分~10 時 30 分)  
新岳北東山麓観測点 (空振計)

新岳北東山麓観測点 (新岳の北東約 2.3km) に設置している空振計では、最大で 62.2Pa 以上で振り切れの空振を観測しました。

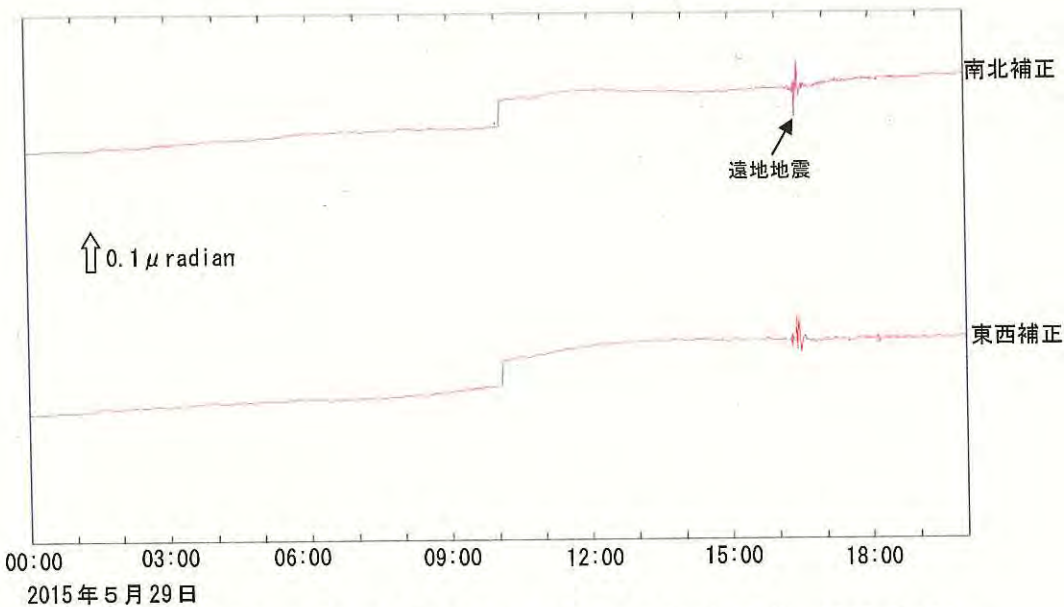


図 11 口永良部島 噴火時の傾斜変動 (5 月 29 日 00 時 00 分~20 時 00 分)  
新岳北東山麓観測点 (傾斜計)

新岳北東山麓観測点に設置している傾斜計では、09 時 59 分の噴火に伴って  
火口方向が下がる傾斜変動が観測されました。

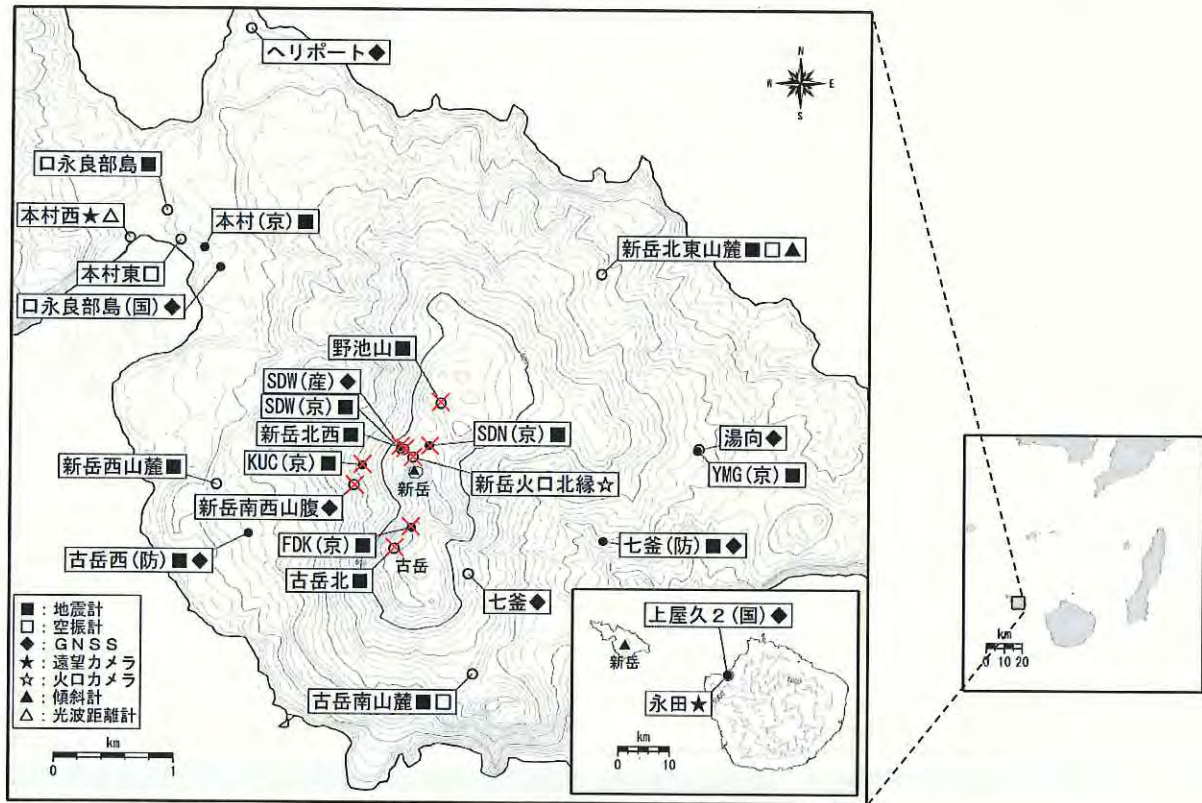


図12 口永良部島 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国): 国土地理院、(京): 京都大学、(防) 防災科学技術研究所、(産): 産業技術総合研究所  
 山頂周辺の観測点(図中赤×印)は、2014年8月3日の噴火により障害となっています。

## 口永良部島の噴火に係る被害状況等について

(これは速報であり、数値等は今後も変わることがある。)

平成27年5月30日(土) 15時00分

消防庁災害対策本部

※下線部は前回からの変更箇所

### 1 火山の状況(気象庁情報)

- ・5月29日 9時59分頃、爆発的噴火が発生した
- ・この噴火に伴い、火砕流が発生し、海岸まで達した
- ・気象庁は、5月29日10時07分、噴火警戒レベルを3(入山規制)から5(避難)に引き上げ

### 2 被害の状況

#### (1) 人的被害

全島民無事を確認

前額部部分熱傷 1名(自力歩行可能)

体調不良 1名

※上記2名については、鹿児島県防災ヘリ・熊毛地区消防組合消防本部との連携により、屋久島町内の病院へ搬送

#### (2) 物的被害

確認中

#### (3) その他被害

確認中

### 3 島外避難の状況

(1) 島内住民及び滞在者合計137名は全員避難済

(2) 避難者の内訳

①町営フェリーで避難 125名

②鹿児島県防災ヘリで避難 3名

③海上保安庁ヘリで避難 6名

④自己所有船で避難 3名

【参考】137名の地区別内訳：屋久島町役場からの情報

川西 38名

川東 48名

前田 15名

向江浜 1名

新村 2名

田代、寝待 6名

湯向 8名

島外者 19名

(3) 避難状況(5月30日7時00分現在)

①縄文の苑(屋久島町宮之浦) 31名

②宮之浦公民館(屋久島町宮之浦) 23名

③老人憩の家(屋久島町宮之浦) 29名

※その他の避難者については、屋久島の親戚や知人宅、ホテル等で避難

4 地方公共団体における災害対策本部等の設置状況

鹿児島県 5月29日 10時07分 災害対策本部設置  
屋久島町 5月29日 10時07分 災害対策本部設置

5 地方公共団体の対応

5月29日 10時15分 屋久島町で口永良部島全島に対し島内避難所への避難勧告発令  
10時20分 避難指示に切替え  
12時10分 島民約120名が避難所へ避難したことを確認、湯向地区の住民が現在避難所へ移動  
13時08分 湯向地区の住民については、海上保安庁の船舶により避難予定  
15時06分 屋久島町宮之浦に避難所3か所（縄文の苑、宮之浦公民館、老人憩の家）を設置  
15時41分 島内住民及び滞在者の全員避難済を確認  
16時30分 熊毛地区消防組合消防本部14名が島内の川西地区、川東地区を捜索し残留者なしを確認し役場職員と共に撤収

6 消防機関の活動

(1) 鹿児島県内の消防機関の活動

5月29日 12時10分 鹿児島市消防局の先遣隊7名（人員のみ）が、海上保安庁・巡視船「こしき」に乗船し出動  
13時08分 熊毛地区消防組合消防本部の救急隊が傷病者2名（鹿児島県防災ヘリが屋久島宮之浦運動場まで搬送した傷病者）を屋久島町内の病院に収容  
14時00分 熊毛地区消防組合消防本部14名が屋久島から口永良部島に渡り、島民の避難誘導等を実施  
16時30分 熊毛地区消防組合消防本部14名が島内の川西地区、川東地区を捜索し残留者なしを確認し撤収  
17時30分 鹿児島市消防局の先遣隊7名は、避難住民の傷病者の有無等を確認し撤収

(2) 鹿児島県防災ヘリの活動

5月29日 10時30分 鹿児島県防災ヘリが情報収集活動実施  
11時25分 鹿児島県防災ヘリが現場上空に到着し、情報収集活動を実施  
12時43分 鹿児島県防災ヘリが情報収集活動から任務を切替え、口永良部ヘリポートから屋久島宮之浦運動場に向けて、傷病者2名（熱傷1名、体調不良1名）、付添1名を搬送し、熊毛地区消防組合消防本部の救急隊に引き継ぐ  
→鹿児島県防災ヘリは枕崎ヘリポートにて待機  
5月30日 6時35分 鹿児島県防災ヘリが火山に関する情報収集活動を実施（火山防災の専門家が同乗）

(3) 屋久島町消防団の活動

屋久島町消防団団長と副団長2名が屋久島から口永良部島に渡り、口永良部分団17名と合流し計20名で島民の避難誘導等を実施し、5月29日15時43分に避難住民と共に町営フェリーで屋久島へ撤収

## 7 消防庁の対応

- 5月29日 10時07分 国民保護・防災部長を長とする災害対策本部を設置
- 10時20分 福岡県、熊本県、大分県、宮崎県の緊急消防援助隊に対し、人命救助事案の発生に備え、準備を依頼
- 10時35分 鹿児島県知事からの出動要請を受け、消防庁長官から高知県、宮崎県、福岡市消防局3機の消防防災ヘリ、福岡市消防局（指揮支援部隊）に対して出動の求めを実施
- 10時40分 鹿児島県に消防庁職員2名の派遣を決定
- 11時30分 高知県、宮崎県の消防防災ヘリが出動（13時30分現場付近到着）
- 14時00分 高知県消防防災ヘリ（消防庁ヘリ5号機）が現場付近に到着し、ヘリサットにより映像配信
- 14時30分 福岡市消防局（指揮支援部隊）が鹿児島県庁に到着、被害状況等を確認
- 15時15分 宮崎県消防防災ヘリが現場上空に到着し、避難状況を確認  
→高知県、宮崎県、福岡市消防局の消防防災ヘリ3機は、避難状況等を確認した後、各派遣元にて待機
- 5月30日 12時00分 福岡市消防局（指揮支援部隊）は派遣元にて待機

問い合わせ先

消防庁災害対策本部

TEL 03-5253-7512

FAX 03-5253-7553

平成27年5月30日1430現在  
海上保安庁

## 口永良部島噴火に関する海上保安庁の対応について

### 1. 対応概要

海上保安庁では、発災後直ちに、本庁及び第十管区海上保安本部に対策本部をそれぞれ設置するとともに、巡視船による住民等の避難等を実施した。

主な対応状況は以下のとおり。

#### 【5月29日】

- ・ 10時34分及び14時49分、航行警報発出
- ・ 11時23分、固定翼機が現場付近に到着、噴煙状況等現場の情報収集を実施
- ・ 11時50分、測量船「拓洋」が本村港沖に到着、要救助者の搬送準備フェリー「太陽」の入港支援を実施
- ・ 11時58分、回転翼機が番屋ヶ峰避難所上空に到着、機動救難士2名が降下、傷病者を発見し、県防災ヘリコプターへ引継ぎ
- ・ 12時32分、巡視船「さつま」が湯向港沖に到着、要救助者6名及び犬1匹を搭載艇にて救助した後、15時40分から2回に分けて回転翼機により巡視船「さつま」から屋久島空港まで緊急輸送
- ・ 13時10分、特殊救難隊が鹿児島航空基地に前進配備完了
- ・ 14時10分、巡視船「とから」が本村港沖に到着、島周辺の警戒監視を開始
- ・ 14時45分、測量船「拓洋」が本村港に避難してきた島民に対し、おにぎり（約50人分）やお茶を提供
- ・ 15時00分、測量船「明洋」が湯向港沖に到着
- ・ 15時42分、フェリー「太陽」が出港、巡視船「とから」が伴走警戒を実施
- ・ 16時00分、巡視船「こしき」が本村港沖に到着（機動救難士5名、消防士7名、警察官22名同乗）、警察官10名を本村港まで搬送
- ・ 16時50分、巡視船「おおすみ」が本村港沖に到着
- ・ 17時00分、警察にて島内に残留者がいないことを確認、巡視船「こしき」にて警察官等を鹿児島へ搬送
- ・ 17時40分、巡視船「くさかき」が日赤医師等7名及び救援物資を載せて屋久島に到着、搬送

#### 【5月30日】

- ・ 3時30分、巡視船「あかいし」が湯向港の北側海域に到着、巡視船「おおすみ」とともに島周辺の警戒監視を開始

### 2. 29日～30日の対応勢力（船艇8隻、航空機4機）

- <船艇> 巡視船6隻、測量船2隻
- <航空機> 固定翼機1機、回転翼機3機
- <その他> 特殊救難隊6名、機動救難士11名

### 3. 今後の対応

巡視船2隻により、島に接近する船舶の警戒監視を実施中

# 口永良部島噴火に関する海上保安庁の対応(5月29日～30日)



海上保安庁

②機動救難士2名  
避難所に降下し、傷病者発見・  
県防災ヘリコプターへ引継ぎ

○測量船明洋  
現場に進出し即応待機

⑥巡視船くさかき  
鹿児島から日赤医師等7名・救援物資  
を屋久島へ搬送

本村  
(ほんむら)

番屋ヶ峰  
(ばんやがみね)

①測量船拓洋  
フェリー太陽入港支援

口永良部島

新岳

湯向  
(ゆむぎ)

③巡視船さつま  
島民6名を巡視船に救助、その後、  
へりで屋久島空港まで緊急輸送



⑤巡視船こしき  
鹿児島から警察22名、消防7名、機動救難士  
5名を搬送(警察10名にて島内残留者を確認)

○フェリー太陽  
125名を屋久島に輸送

【対応勢力】  
巡視船6隻、測量船2隻、航空機4機  
<30日>  
巡視船2隻により島に接近する船舶  
の警戒監視を実施中

④巡視船とから  
フェリー太陽の屋久島までの伴走警戒

○県庁にリエゾン3名派遣  
○屋久島に職員2名派遣  
○鹿児島基地に特殊救難隊(1個隊)、  
関空基地MH(機動救難士2名同乗)、  
福岡基地MH(機動救難士2名同乗)を  
前進配備

※数字は時系列の順

**口永良部島における噴火に係る災害派遣について**  
(5月30日16時00分現在)

**1. 災害派遣の概要**

- (1) 要請日時 平成27年5月29日(金) 10時40分  
 (2) 要請元 鹿児島県知事  
 (3) 要請先 陸上自衛隊第8師団長(北熊本)  
 (4) 要請の概要 航空機による避難支援・情報収集  
 (5) 発生場所 鹿児島県くちのえらぶじま口永良部島

**2. 災害派遣までの経緯**

平成27年5月29日(金)、口永良部島で噴火が発生、同日10時40分、鹿児島県知事から陸上自衛隊第8師団長に対し、航空機による避難支援・情報収集に係る災害派遣要請があった。

**3. 防衛省・自衛隊の主な対応**

- (1) 派遣部隊 陸 自 第8師団司令部(北熊本)、第8通信大隊(北熊本)、  
 第8偵察隊(北熊本)、第12普通科連隊(国分)、  
 西部方面航空隊(高遊原、目達原)、第8飛行隊(高遊原)  
 海 自 第1航空群(鹿屋)、第22航空群(鹿屋)  
 空 自 第5航空団(新田原)、偵察航空隊(百里)
- (2) 活動規模 人 員 約25名(延べ約35名)  
 車 両 1両(延べ2両)  
 航空機 9機(延べ22機)

(3) 主な対応状況

**【29日(金)】**

- 10時07分 運用企画局に防衛省災害対策室を設置。(長：運用企画局長)  
 10時15分 第5航空団のF-4×2機が基地を離陸。以降、情報収集活動を実施。  
 10時20分 防衛大臣指示。  
 ○自治体及び関係省庁と緊密に連携し、災害派遣活動に万全を期すこと  
 ○被害の状況に応じ、適切な対応を実施すること。  
 10時30分 第12普通科連隊のLO(人員4名、車両1両)が駐屯地を出発。以降、鹿児島県庁で情報収集活動実施。  
 10時40分 鹿児島県知事から陸上自衛隊第8師団長に対して**災害派遣要請**。  
 10時48分 第1航空群のP-3C×1機が基地を離陸。以降、情報収集活動実施。



- 11時12分 西部方面航空隊のUH-60×1機、UH-1×2機が駐屯地を離陸。  
以降、情報収集活動実施。(活動後、鹿屋で待機。)
- 11時15分 第8飛行隊のUH-60×1機が駐屯地を離陸。屋久島町役場へ12普通科連隊LO2名を輸送。12時43分現地到着、避難支援活動等を実施する第8師団司令部・第8通信大隊・第8偵察隊所属の人員6名を輸送後、高遊原へ帰投。
- 11時23分 第22航空群のUH-60×2機が基地を離陸(11時45分、47分現地到着)。以降、情報収集活動実施。
- 12時18分 第8飛行隊のCH-47×1機が駐屯地を離陸(14時03分種子島到着)。以降、避難支援実施準備のため、種子島で待機後、高遊原へ帰投。
- 12時30分 偵察航空隊のRF-4×2機が基地を離陸。以降、情報収集活動実施。
- 12時52分 第8飛行隊のCH-47×1機が駐屯地を離陸(13時43分国分到着)。以降、避難支援実施準備のため、国分で待機後、高遊原へ帰投。

#### 【30日(土)】

- 第12普通科連隊のLO(人員4名、車両1両)が鹿児島県庁で情報収集活動実施。
- 第12普通科連隊のLO(人員2名)が屋久島役場で情報収集活動実施。
- 西部方面航空隊のCH-47×3機が高遊原で待機。
- 西部方面航空隊のUH-1×2機、UH-60×1機が鹿屋で待機。
- 第12普通科連隊のファスト・フォース約20名が国分で待機。
- 第22航空群のUH-60×3機が鹿屋で待機。

#### 4. 政府調査団の支援

##### 【29日(金)】

- 14時15分 西部方面航空隊のUH-60×1機が鹿児島空港を離陸。以降、政府調査団(4名)による上空視察の支援を実施。

##### 【30日(土)】

- 07時00分 西部方面航空隊のUH-60×1機が鹿児島県マリポートかごしまを離陸。以降、政府調査団(赤澤副大臣以下6名)による上空視察の支援を実施。

くちのえらぶじま

## 口永良部島の火山活動についての国土交通省の対応状況

(5月30日13時時点)

## 1. 噴火の概要等

○発生日時：平成27年5月29日09時59分

火砕流が噴火口から南西側および北西側の海岸に到達（噴火直後の噴煙高度は火口上9000m以上）。

○29日09時59分に発生した噴火は30日10時50分に停止した模様。

## 2. 島民の避難状況（島民等138名が屋久島に避難完了）

○番屋ヶ峰から3名が鹿児島県防災ヘリにより搬送済み。（火傷1名、心臓病1名、付添者1名）

○湯向集落の6名を海上保安庁の巡視船「さつま」に収容し、「さつま」から海保ヘリで屋久島に搬送済み。

○番屋ヶ峰の避難者125名を乗せたフェリー太陽が屋久島宮之浦港到着

○そのほか、3名は漁船で避難、1名は発災時屋久島に所在。

○29日17:32時点で島内の所在者なしを確認。

（消防、屋久島町役場、県職員、警察、海上保安官が全て離島。）

○屋久島の3カ所の避難所は次の通り。

- ・宮之浦老人憩いの家
- ・宮之浦公民館
- ・屋久島町福祉センター

## 3. 国土交通省の対応状況

○国土交通省職員の派遣状況

- ・海上保安庁：鹿児島県庁2名
- ・気象庁：屋久島町2名、鹿児島県庁1名
- ・九州地整・九州運輸リエゾン：屋久島町3名、鹿児島県庁4名
- ・九州地整 TEC-FORCE：11名（ヘリ調査、監視カメラ設置等）

○防災ヘリによる調査状況（九州地整 はるかぜ号）

5月29日 口永良部島上空より調査を実施

5月30日 口永良部島上空より調査を実施

## ○海上保安庁の対応

- 5月29日
- ・機動救難士が番屋ヶ峰避難所の負傷者2名を救助
  - ・測量船が本村港沖でフェリー太陽の入港支援
  - ・巡視船及びヘリで湯向の島民6名を屋久島に搬送
  - ・巡視船で救助支援の関係機関職員を口永良部島に搬送
- 5月30日
- ・巡視船2隻を口永良部島周辺海域に配備中

## 4. 初動対応・体制

- 5月29日 10:07 非常体制（気象庁）
- 10:08 非常体制（国土交通省、国土地理院、九州地方整備局、九州運輸局）
- 11:50 第1回対策本部会議（大臣指示を発出）
- 14:50 第2回対策本部会議
- 5月30日 10:30 第3回対策本部会議
- 12:15 うえの政務官が現地入りし、鹿児島県知事と意見交換等を実施
- ・屋久島町長と電話会談
  - ・鹿児島県知事と意見交換
  - ・第10管区海上保安本部における激励
- ※天候の悪化により、防災ヘリによる上空からの調査と屋久島町長との直接の会談が出来なかった。

## 口永良部島の火山活動について(第4報)

### 1. 本省及び地方支分部局の体制について

国土交通本省	5月29日	10:08	非常体制「当該災害に関する対策本部設置」				
九州地方整備局	5月29日	10:08	非常体制	九州運輸局	5月29日	10:08	非常体制
国土地理院	5月29日	10:08	非常体制	気象庁本庁	5月29日	10:07	非常体制
国土技術政策総合研究所	5月29日	10:08	非常体制				

### 2. 噴火の概要

- 新岳では、5月29日09時59分に爆発的噴火が発生しました。
- この噴火により、噴煙が火口上9,000m以上まで上がりました。また、火砕流が発生し、新岳火口の南西側から北西側(向江浜地区)方向の海岸まで達しました。
- その後、5月29日09時59分に発生した噴火は、30日10時50分に停止した模様。

### 3. 気象の見通し

- 前線を伴った低気圧が、今日30日夜に九州南部を通過する見込み。この影響で、種子島・屋久島地方を中心に1時間40ミリの激しい雨の降るおそれ。明日31日12時までの24時間に予想される雨量は100ミリの見込み。
- 今日30日夕方から明日31日明け方まで、落雷や突風、急な強い雨に注意。

### 4. 島民の避難状況(島民等138名が屋久島に避難完了)

- 番屋ヶ峰から3名が防災ヘリにより搬送済み。(火傷1名、心臓病1名、付添者1名)
- 湯向集落の6名を海上保安庁の巡視船「さつま」に収容し、「さつま」から海保ヘリで屋久島に搬送済み。
- 番屋ヶ峰の避難者125名乗せたフェリー太陽が屋久島宮之浦港へ5/29 17:30に到着し、5/29 18:45ごろに乗船者全員が無事に上陸
- そのほか、3名は漁船で避難、1名は発災時屋久島に所在。
- 29日17:32時点で島内の所在者なしを確認。(消防、屋久島町役場、県職員、警察、海上保安官が全て離島。)
- 屋久島の3カ所の避難所は次の通り。
  - ・宮之浦老人憩いの家
  - ・宮之浦公民館
  - ・屋久島町福祉センター

### 5. 国土交通省の対応

- ・5/29 11:50 第1回対策本部会議開催(大臣指示)
  - ・5/29 14:50 第2回対策本部会議開催
  - ・5/30 10:30 第3回対策本部会議開催
  - ・5/30 12:15 うえの政務官が現地入りし鹿児島県知事と意見交換等を実施
    - ・屋久島町長と電話会談
    - ・鹿児島県知事と意見交換
    - ・第10管区海上保安本部における激励
- ※天候の悪化により、防災ヘリによる上空からの調査と屋久島町長との直接の会談ができなかった

○リエゾン(情報連絡員)派遣

- 海上保安庁より1県1町へ、のべ7人・日派遣(5/29~30)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	3	2				5
屋久島町	2	0				2
合計	5	2	0	0	0	7

- 気象庁より1県1町へ、のべ7人・日派遣(5/29~30)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	2	1				3
屋久島町	2	2				4
合計	4	3	0	0	0	7

- 九州地方整備局より1県1町へ、のべ11人・日派遣(5/29~30)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	3	2				5
屋久島町	3	3				6
合計	6	5	0	0	0	11

- 九州運輸局より1県へ、のべ4人・日派遣(5/29~30)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	2	2				4
合計	2	2	0	0	0	4

○TEC-FORCEの派遣

- 九州地方整備局より、防災ヘリコプターによる上空からの被災状況調査、映像配信、海煌による資機材運搬、情報収集のため、のべ19人・日派遣(5/29~30)。

(単位:人)

派遣元	派遣内容	5			6		合計
		29	30	31	1	2	
九州地整	被災状況調査(ヘリ)	4	3				7
	映像配信	2	2				4
	資機材運搬	2	2				4
	情報収集		1				1
	現地活動支援		3				3
合計		8	11	0	0	0	19

○防災ヘリコプターによる状況調査

- 九州地方整備局防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査をTEC-FORCE及び福岡管区气象台で実施(5/29)。火山灰及び火砕流の分布状況について確認。
- 九州地方整備局防災ヘリコプター(鹿児島空港8:23離陸)による口永良部島上空からの調査をTEC-FORCEで実施(5/30)。

○災害対策用機械等出動状況

整備局名	出動先	出動理由	機械名	台数	状況	期間
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	火山監視	Ku-SAT	1	稼働中	5/29~
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	現地支援	情報収集車	1	待機中	5/30~
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	現地支援	待機支援車	1	移動中	5/30~

○調査観測兼清掃船「海煌(かいこう)」出港

九州本島との資材運搬等の輸送に備え、熊本港湾・空港整備事務所の「海煌」が八代港を出港

5/29 13:30 八代港出港

5/30 00:45 鹿児島港入港

乗船可能人員 12名(乗務員除く)

## 6. 気象庁の対応

○5月29日10:07 噴火警報(居住地域)を発表し、噴火警戒レベルを3(入山規制)から5(避難)に引き

○5月29日10:40 火山の状況に関する解説情報を発表

○5月29日11:10 九州地方整備局の協力により、気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実

○5月29日11:30 記者会見

○5月29日13:30、18:00 気象庁災害対策本部会議

○5月29日16:00 火山の状況に関する解説情報の定期的な発表を開始(毎日10時、16時)

○5月29日 復旧担当者・被災者向け気象支援資料の提供を開始(毎日5時、11時、17時頃更新)

○5月29日 気象庁ホームページに口永良部島噴火の関連情報ポータルサイトを開設

○5月30日06:40 鹿児島県の協力により、気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実施

## 7. 海上保安庁の対応

5月29日

### ■巡視船・測量船

○「拓洋」が本村港沖に到着(1150)。要救助者搬送準備・フェリー太陽の入港支援を実施

○「さつま」が湯向港沖に到着(1232)。搭載艇により島民6名を「さつま」に救助後、ヘリで屋久島空港まで搬送

○「明洋」が湯向港沖に到着(1500)。即応待機

○「とから」が、フェリー太陽の伴走警戒を実施(1542)

○「こしき」が本村港沖到着(1600)。鹿児島から搬送した「警察22名、消防7名」のうち「警察10名」を口永良部島に搬送

○「くさかき」が鹿児島から「日赤医師等7名及び救援物資」を屋久島に搬送(1740)

### ■航空機等

○ヘリが番屋ヶ峰避難所上空に到着(1158)。機動救難士が避難所に降下し傷病者2名(火傷1名、心臓病1名)を救助、県防災ヘリへ引継

○「特殊救難隊(1個隊)、関西航空基地ヘリ(機動救難士2名同乗)、福岡航空基地ヘリ(機動救難士2名同乗)」を鹿児島基地に前進配備

5月30日

○巡視船2隻を口永良部島周辺海域に配備中

## 8. 国土地理院の対応

・過去の空中写真および災害対策用図を関係機関へ提供(5月29日)

・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真を撮影(5月29日)

・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真を関係機関へ提供(5月29日)

・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真をホームページで公開(5月30日)

・人工衛星(だいち2号)データを用いて口永良部島の地表の状態の変化を面的に把握しホームページで公開(5月30日) URL:<http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/h27-kuchinoerabu-index.html>

## 9. 所管施設等の状況

### ○道路関係

■本村と湯向を結ぶ町道は噴石散乱のため通行不能との情報

■本村と番屋ヶ峰を結ぶ町道は通行可能との情報

○河川関係、ダム関係、公営住宅関係、公園関係、宅地関係、下水道関係、官庁施設関係、鉄道関係、自動車関係、航空関係、海事関係、港湾関係、物流関係、観光関係等

・現時点で被害情報なし

問合せ先:水管理・国土保全局防災課災害対策室 池本
代表:03-5253-8111 内線35-822
直通:03-5253-8461

## 口永良部島の噴火状況等について

※これは速報値であり、数値等は今後も変わることがある。

平成 27 年 5 月 30 日

16 時 00 分 現在

内 閣 府

### 1. 火山活動等の概要（気象庁情報：5月30日14:00現在）

#### (1) 火山活動の状況（噴火警戒レベル5）

##### 【5月29日（金）】

- ・ 09:59 新岳で噴火
- ・ 10:07 噴火警戒レベル5（避難）発表（気象庁）  
新岳では、本日（29日）09時59分に爆発的噴火が発生。  
この噴火に伴い、火砕流が発生し、海岸まで達した。
- ・ 10:40 「臨時」の火山の状況に関する解説情報発表（気象庁）  
口永良部島新岳では、本日（29日）09時59分に爆発的噴火が発生し、火砕流が新岳の南西側から北西側（向江浜地区）にかけての海岸まで達したのを確認した。噴煙は火口縁上9,000メートル以上まで上がり、火口周辺に噴石が飛散しているのを確認した。
- ・ 16:00 火山の状況に関する解説情報発表（気象庁）  
噴火は現在も継続しており、噴煙が火口縁上200メートルまで上がり、南西に流れている。
- ・ 21:50 口永良部島の火山活動解説資料発表（気象庁）  
噴火は現在も継続しており、17時30分の噴火では、噴煙が火口縁上1,200メートルまで上がっている。

##### 【5月30日（土）】

- ・ 10:00 火山の状況に関する解説情報発表（気象庁）  
爆発的噴火の発生後も噴火は継続しており、本日（30日）に入ってから噴煙が火口縁上概ね200メートルで経過している。
- ・ 10:50 噴火は停止した模様。天候不良のため噴煙状況不明。

#### (2) 対象市町村等

- ・ 鹿児島県屋久島町

#### (3) 防災上の警戒事項

- ・ 火砕流の流下が切迫している居住地域では厳重な警戒（避難等の対応）が必要。

#### (4) 降灰予報（定時）（気象庁情報：5月30日14:00現在）

- ・ 現在、口永良部島は噴火警戒レベル5（避難）。30日15時から31日9時までに噴火が発生した場合には、火口から東方向に、降灰及び小さな噴石の落下が予想される。

(5) 気象の見通し（気象庁情報：5月30日14:00現在）

- ・前線を伴った低気圧が、今日30日夜に九州南部を通過する見込み。この影響で、種子島・屋久島地方を中心に1時間40ミリの激しい雨の降るおそれ。明日31日12時までの24時間に予想される雨量は100ミリの見込み。今日30日夕方から明日31日明け方まで、落雷や突風、急な強い雨に注意。

2. 被害状況（消防庁情報：5月30日15:00現在）

(1) 人的被害

- ・全島民無事を確認
- ・前額部部分熱傷 1名（自力歩行可能）
- ・体調不良 1名

(2) 物的被害

- ・確認中

(3) その他被害

- ・確認中

3. 住民の避難

(1) 避難指示等の状況（消防庁情報：5月30日15:00現在）

- 10:15 屋久島町：口永良部全島に対し、島外への避難勧告
- 10:20 屋久島町：避難指示へ切り替え

(2) 住民等の島からの避難（鹿児島県災害対策本部とりまとめ：5月30日7:00現在）

- ・噴火時島滞在者 137名（島民118名、旅行者等19名）は全員避難済

（参考）避難の内訳

- ・町営フェリー乗船者：125名（うち島民106名、旅行者等19名）
- ・鹿児島県防災ヘリによる搬送：3名
- ・海上保安庁巡視船「さつま」による搬送：6名
- ・それぞれの漁船で避難：3名

※上記のほか、噴火時に島外に所在していた島民1名が避難所に滞在中  
当該者を含めると避難者は138名

(3) 避難先の状況（鹿児島県屋久島町災害対策本部とりまとめ：5月30日14:00現在）

- ・屋久島島内に3ヶ所の避難所を開設【合計42世帯69名が避難（14:00現在）】

- ①屋久島福祉センター「縄文の苑」（15世帯25名） ※噴火時、島外にいた島民1名を含む
- ②宮之浦公民館（13世帯18名）
- ③宮之浦老人憩の家（14世帯26名）

- ・その他の避難者については、屋久島の親戚や知人宅、ホテル等で避難。



(参考) 避難所の状況

- ・各避難所に町職員を4名ずつ配置し、炊き出しを実施。  
避難所近くのホテルでお風呂の提供。
- ・県から保健師を2名派遣。避難所3か所を巡回し避難者の健康状態を把握。

#### 4. その他の被害状況等

##### (1) ライフラインの状況

###### ア 電力（経済産業省情報：5月30日15:00現在）

- ・現時点で発電支障・供給支障ともになし。（ディーゼル発電所200kW×1台、100kW×1台の合計300kW。発電所の立地場所は、中心地の本村地区の近く。）
- ・委託運転員（計4名）は、島外に避難済み。
- ・発電所は、自動運転中であり、燃料も約80日の運転継続が可能ないように作業を行った。

###### イ ガス（経済産業省情報：5月30日15:00現在）

- ・LPガス：販売所が1カ所あり（消費者戸数80戸弱）。被害情報はなし。  
（島民に避難指示が発令されているため、消費者から被害状況が入らない状況）
- ・都市ガス（一般ガス、簡易ガス）：都市ガス設備はなし。

###### ウ 水道（厚生労働省情報：5月30日14:45現在）

- ・断水状況は不明

###### エ 通信・放送（総務省情報：5月30日15:00現在）

- ・被害なし

##### (2) 道路関係（国土交通省情報：5月30日8:00現在）

- ・本村と湯向を結ぶ町道は噴石散乱のため通行不能との情報
- ・本村と番屋ヶ峰を結ぶ町道は通行可能との情報

##### (3) 原子力施設関係（原子力規制庁情報：5月29日10:35現在）

- ・川内原子力発電所（口之永良部島から約150km）は異常なし。

##### (4) その他の状況

- ・現時点で被害情報なし

#### 5. 政府の主な対応

##### (1) 官邸の対応

- ・官邸対策室設置（5月29日10:07）
- ・総理会見（5月29日11:45）

## (2) 総理指示

- ・以下のとおり総理指示が発せられた（5月29日10:15）

- 1 早急な被害状況の把握
- 2 自治体との緊密な連携による避難等の安全確保措置の徹底
- 3 適時的確な情報の提供

## (3) 緊急参集チーム

- ・緊急参集チーム協議開始（5月29日10:37）

### <<緊急参集チーム確認事項>>

- 1 地方自治体、関係機関等との連携を密にし、口永良部島の火山活動や被害状況を的確に把握するとともに、住民の安全を第一として、政府一体となった救援救助活動、避難支援等に全力を尽くす。
- 2 被害の状況に応じ、緊急消防援助隊、警察広域援助隊、自衛隊の災害派遣部隊、海上保安庁の救援救助部隊、災害派遣医療チーム(DMAT)等による被災地への広域応援を行い、災害応急対策に万全を期す。
- 3 火山活動について、引き続き、国や関係機関が一体となって厳重な観測・監視・分析を行い、住民や地方自治体、関係機関に対する的確な情報提供を行う。

## (4) 災害派遣要請

要請日時：平成27年5月29日（金）10:40

要請元：鹿児島県知事

要請先：陸上自衛隊第8師団長（北熊本）

要請の概要：航空機による避難支援・情報収集

発生場所：鹿児島県口永良部島

<<派遣規模>>（5月30日14:30現在）

人員 約25名（延べ約35名）

車両 1両（延べ2両）

航空機 9機（22機）

## (5) 政府調査団の派遣等

- ・内閣府情報先遣チームを鹿児島県屋久島町役場へ派遣（5月29日11:38）
- ・赤澤内閣府副大臣を団長とする政府調査団を鹿児島県庁へ派遣（5月29日11:38）
- ・赤澤内閣府副大臣を団長とする政府調査団が自衛隊ヘリにて口永良部島上空視察を行うとともに、屋久島町役場での意見交換及び避難所訪問を実施（5月30日午前）

## (6) 関係省庁災害対策会議

- ・山谷内閣府特命担当大臣（防災）、松本内閣府大臣政務官出席のもと、関係省庁災害対策会議を開催し、佐々木鹿児島県副知事とテレビ会議を行うとともに、今後の火山活動の見通し、被害状況及び各省庁の対応状況について情報共有を行った。（5月29日11:00）
- ・山谷内閣府特命担当大臣（防災）、松本内閣府大臣政務官、藤井火山噴火予知連絡

会会長出席のもと、第2回関係省庁災害対策会議を開催し、佐々木鹿児島県副知事とテレビ会議を行うとともに、今後の火山活動の見通し、被害状況及び各省庁の対応状況について情報共有を行った。(5月29日16:00)

#### (7) 政府現地連絡調整室

- ・口永良部島の噴火が発生している鹿児島県屋久島町において、国と被災地方公共団体が一体となって、現地での災害応急対策に係る調整を実施するため、鹿児島県屋久島町役場に政府現地連絡調整室(室長:内閣府政策統括官(防災担当)付参事官)を設置(5月29日16:30)。

#### (8) 災害救助法の適用

- ・平成27年5月29日の口永良部島(新岳)噴火により、多数の者が生命又は身体に危害を受け、又は受けるおそれが生じており、継続的に救助を必要としているため。
  - ・鹿児島県:熊毛郡屋久島町(くまげぐんやくしまちょう)(5月29日適用)

### 6. 各府省庁の主な対応

#### (1) 内閣府の対応

- ・情報対策室設置(5月23日10:45)
- ・災害対策室へ改組(5月29日10:07)
- ・内閣府防災ツイッター等により、国民への情報発信を実施(5月29日10:24、10:42、15:12、5月30日00:02)

#### (2) 警察庁の対応

【5月29日(金)】

- ・警察庁及び鹿児島県警察では、関連情報の収集等を実施
- ・災害警備本部を設置(5月29日10:07)
- ・機動隊10名、管区機動隊12名が海保巡視船にて12:12に出発し、15:54に本村港近海に到着。順次小型船で5人が本村港へ上陸し、避難区域の残留者確認等を実施。
- ・屋久島署員1名が町営船舶により11:50に出発し、13:55に到着。順次避難区域の確認、避難住民の誘導等に従事。
- ・鹿児島県警ヘリ(屋久島署員3名搭乗)が13:50に到着し。順次避難区域の確認、避難住民の誘導等に従事。
- ・屋久島署員3名が民間漁船により12:40に出発し、13:50に到着。順次避難区域の確認、避難住民の誘導を実施。
- ・鹿児島県警警備艇にて管区機動隊5名通信2名が11:40に出発し、14:10に到着。順次避難区域の確認、避難住民の誘導等を実施。
- ・機動隊員等の避難区域確認の結果、湯向地区には残留者なしを確認
- ・鹿児島県警ヘリが11:25頃現地に到着し、情報収集を実施。
- ・11:00に、九州管区内広域緊急援助隊に待機指示(15:30解除)
- ・各県警察ヘリが順次フライト
- ・島内に残留している警察官は、避難区域の残留者の確認を実施。

- ・ 消防、町役場、県職員が離島（16:30）。
- ・ すべての警察官が離島し、島内に所在する者はなし（17:32）。

### 【5月30日（土）】

- ・ 鹿児島県警のヘリテレ映像を官邸等に送信（9:40）
- ・ 本部地域課員4名が警備艇による海上からの情報収集、警戒等を実施。
- ・ 鹿児島県機動警察通信隊員5名が、屋久島に設置した臨時固定カメラの映像を官邸等に送信。
- ・ 屋久島署員及び管区機動隊員9名が、3カ所の避難所において警戒活動、避難住民の困りごと相談等の活動を実施。

### (3) 消防庁の対応

- ・ 災害対策本部を設置（5月29日10:07）
- ・ 福岡県、熊本県、大分県、宮崎県の緊急消防援助隊に対し、人命救助事案の発生に備え、準備を依頼（5月29日10:20）。
- ・ 鹿児島県知事からの出動要請を受け、消防庁長官から高知県、宮崎県、福岡市消防局3機の消防防災ヘリ、福岡市消防局（指揮支援部隊）に対して出動の求めを実施（5月29日10:35）
- ・ 鹿児島県に消防庁職員2名の派遣を決定（5月29日10:40）
- ・ 高知県、宮崎県の消防防災ヘリが出動（5月29日13:30現場付近到着）
- ・ 高知県消防防災ヘリ（消防庁ヘリ5号機）が現場付近に到着し、ヘリサットにより映像配信（5月29日14:00）
- ・ 福岡市消防局（指揮支援部隊）が鹿児島県庁に到着（5月29日14:30頃）
- ・ 宮崎県消防防災ヘリが現場上空に到着し、避難状況を確認（5月29日15:15）  
→高知県、宮崎県、福岡市消防局の消防防災ヘリ3機は、避難状況等を確認した後、各派遣元にて待機

### <<消防機関の活動>>

#### ① 鹿児島県内の消防機関の活動

- ・ 鹿児島市消防局の先遣隊7名（人員のみ）が、海上保安庁・巡視船「こしき」に乗船し出動（5月29日12:10）
- ・ 熊毛地区消防組合消防本部の救急隊が傷病者2名（鹿児島県防災ヘリが屋久島宮之浦運動場まで搬送した傷病者）を屋久島町内の病院に収容（5月29日13:08）
- ・ 熊毛地区消防組合消防本部14名が屋久島から口永良部島に渡り、島民の避難誘導等を実施中（5月29日14:00）
- ・ 熊毛地区消防組合消防本部14名が島内の川西地区、川東地区を検索し残留者なしを確認し撤収（5月29日16:30）
- ・ 鹿児島市消防局の先遣隊7名は、避難住民の傷病者の有無等を確認のうえ、帰港（5月29日17:45）

## ② 鹿児島県防災ヘリの活動

- ・鹿児島県防災ヘリ 情報収集活動実施 (5月29日10:30)
- ・鹿児島県防災ヘリ 現场上空に到着し、情報収集活動中 (5月29日11:25)
- ・鹿児島県防災ヘリが情報収集活動から任務を切り替え、口永良部ヘリ ポートから屋久島宮之浦運動場に対し、傷病者2名(火傷1名、体調不良1名)、付添1名を搬送し、熊毛地区消防組合消防本部の救急隊に引き継ぐ。(5月29日12:43)  
→鹿児島県防災ヘリは枕崎ヘリポートにて待機
- ・鹿児島県防災ヘリが火山に関する情報収集活動を実施(火山防災の専門家が同乗)(5月30日6:35)

## ③ 屋久島町消防団の活動

- ・屋久島町消防団団長、副団長2名が屋久島から口永良部島に渡り、口永良部分団17名と合流し、計20名で島民の避難誘導等を実施し、5月29日15:43に避難住民と共に町営フェリーで屋久島へ撤収

## (4) 海上保安庁の対応

### 【5月29日(金)】

- ・航行警報発出(10:34及び14:49)
- ・固定翼機が現場付近に到着、噴煙状況等現場の情報収集を実施(11:23)
- ・測量船「拓洋」が本村港沖に到着、要救助者の搬送準備(11:50)  
フェリー「太陽」の入港支援を実施
- ・回転翼機が番屋ヶ峰避難所上空に到着、機動救難士2名が降下、傷病者を発見し、県防災ヘリコプターへ引継ぎ(11:58)
- ・巡視船「さつま」が湯向港沖に到着(12:32)。要救助者6名及び犬1匹を搭載艇にて救助した後、2回に分けて回転翼機により巡視船「さつま」から屋久島空港まで緊急輸送(15:40)
- ・特殊救難隊が鹿児島航空基地に前進配備完了(13:10)
- ・巡視船「とから」が本村港沖に到着、島周辺の警戒監視を開始(14:10)
- ・測量船「拓洋」が本村港に避難してきた島民に対し、おにぎり(約50人分)やお茶を提供(14:45)
- ・測量船「明洋」が湯向港沖に到着(15:00)
- ・フェリー「太陽」が出港、巡視船「とから」が伴走警戒を実施(15:42)
- ・巡視船「こしき」が本村港沖に到着(機動救難士5名、消防士7名、警察官22名同乗)、警察官10名を本村港まで搬送(16:00)
- ・巡視船「おおすみ」が本村港沖に到着(16:50)
- ・警察にて島内に残留者がいないことを確認、巡視船「こしき」にて警察官等を鹿児島へ搬送(17:00)
- ・巡視船「くさかき」が日赤医師等7名及び救援物資を載せて屋久島に到着、搬送(17:40)

### 【5月30日(土)】

- ・巡視船「あかいし」が湯向港の北側海域に到着、巡視船「おおすみ」とともに島

周辺の警戒監視を開始 (3:30)

<<29日～30日の対応勢力(船艇8隻、航空機4機)>>

船艇: 巡視船6隻、測量船2隻

航空機: 固定翼機1機、回転翼機3機

その他: 特殊救難隊6名、機動救難士11名

<<今後の対応>>

- ・巡視船2隻により、島に接近する船舶の警戒監視を実施中

#### (5) 防衛省の対応

【5月29日(金)】

- ・第5航空団のF-4×2機が基地を離陸。以降、情報収集活動を実施(10:15)。
- ・防衛大臣指示(10:20)。
  - ・自治体及び関係省庁と緊密に連携し、災害派遣活動に万全を期すこと
  - ・被害の状況に応じ、適切な対応を実施すること。
- ・第12普通科連隊のL0(人員4名、車両1両)が駐屯地を出発。以降、情報収集活動実施(10:30)。
- ・鹿児島県知事から陸上自衛隊第8師団長に対して災害派遣要請(10:40)。
- ・第1航空群のP-3C×1機が基地を離陸。以降、情報収集活動実施(10:48)。
- ・西部方面航空隊のUH-60×1機、UH-1×2機が駐屯地を離陸(11:12)。以降、情報収集活動実施。(活動後、鹿屋で待機。)
- ・第8飛行隊のUH-60×1機が駐屯地を離陸。屋久島町役場へ12普通科連隊L02名を輸送(11:15)。12:43現地到着、避難支援活動等を実施する第8師団司令部・第8通信大隊・第8偵察隊所属の人員6名を輸送後、高遊原へ帰投。
- ・11:23、第22航空群のUH-60×2機が基地を離陸(11:45、11:47現地到着)。以降、情報収集活動実施。
- ・12:18、第8飛行隊のCH47×1機が駐屯地を離陸(14:03種子島到着)。以降、避難支援実施準備のため、種子島で待機後、高遊原へ帰投。
- ・12:30、偵察航空隊のRF-4×2機が基地を離陸。以降、情報収集活動実施。
- ・12:52、第8飛行隊のCH-47×1機が駐屯地を離陸(13:43国分到着)。以降、避難支援実施準備のため、国分で待機後、高遊原へ帰投。

【5月30日(土)】

- ・第12普通科連隊のL0(人員4名、車両1両)が鹿児島県庁で情報収集活動実施。
- ・第12普通科連隊のL0(人員2名)が屋久島役場で情報収集活動実施。
- ・西部方面航空隊のCH-47×3機が高遊原で待機。
- ・西部方面航空隊のUH-1×2機、UH-60×1機が鹿屋で待機。
- ・第12普通科連隊のファスト・フォース約20名が国分で待機。

- ・第22航空群のUH-60×3機が鹿屋で待機。

#### (6) 総務省の対応

- ・災害用伝言サービスの提供開始(5月29日11:16災害用伝言ダイヤル及び災害用伝言板、同日11:19災害用音声お届けサービス)
- ・災害救助法の適用を受けた地域を告知先とする無線局免許人に対し、電波利用料債権の催促状及び督促状の送付を停止する措置を実施(5月29日 鹿児島県熊毛郡屋久島町)。

#### (7) 厚生労働省の対応

- ・医療施設の被害はなし(5月30日14:45現在)

##### <<DMAT等の救護活動の状況>>(5月30日14:45現在)

- ・鹿児島県からDMATに派遣要請等は行っていない。なお、鹿児島市立病院のDMATと鹿児島赤十字病院の救護班が自主待機中(5月29日12:30現在)
- ・日赤救護班(医師1名、看護師3名、調整員3名)海保巡視船により、避難民健康チェック目的にて派遣(13:00谷山港出港→18:04屋久島宮之浦港到着)。現地での活動は、現地で災害対策本部と調整。

##### <<避難者の健康管理>>(5月30日14:45現在)

- ・現時点でDPATの出動予定はない。
- ・30日午後から、屋久島保健所と屋久島町の保健師が、避難者の健康チェックのため3カ所の避難所を巡回予定。

##### <<雇用促進住宅の提供>>(5月30日14:45現在)

- ・鹿児島市内に2住宅(戸数内訳 11戸、25戸)所在。  
※入居(提供)可能となる時期については、確認中。

##### <<医療保険関係>>(5月30日14:45現在)

- ・各都道府県等に対して、災害により被災した被保険者に係る保険料(税)の一部負担金の減免を行うことができる旨を周知(5月29日)  
※平成25年5月に発出した事務連絡を再周知。

##### <<介護保険関係>>(5月30日14:45現在)

- ・鹿児島県(管内自治体も含む。)に対して、今般の災害により被災した要介護高齢者等について、保険者より特段の配慮(被災し利用者負担をすることが困難な者について、利用者負担の減免ができるなど)をお願いする旨を周知(5月29日)  
※平成25年5月に発出した事務連絡を再周知。

#### (8) 文部科学省の対応

- ・災害情報連絡室設置(5月29日10:10)。
- ・鹿児島県教育委員会に対し、児童生徒等の安全確保と文教施設の被害状況の把握、二次災害防止を要請(5月25日)。
- ・引き続き、教育委員会等と連携を密にしつつ、被害状況等の収集に努める。

## (9) 経済産業省の対応

- ・口永良部島（新岳）噴火に係る災害に関して鹿児島県熊毛郡屋久島町に災害救助法が適用されたことを踏まえ、被災中小企業・小規模事業者対策として、特別相談窓口の設置、災害復旧貸付の実施、セーフティネット保証4号の実施、既往債務の返済条件緩和等の対応、小規模企業共済災害時貸付の適用の措置を講じた。また、窓口における親身な対応や資金の円滑な融通等を要請する通知文書を、中小企業庁及び財務省の連名で、日本政策金融公庫、商工組合中央金庫及び全国信用保証協会連合会に対して発出した。（5月29日）
- ・口永良部島（新岳）噴火に係る災害を危機認定し、日本政策金融公庫から指定金融機関（日本政策投資銀行、商工組合中央金庫）を通じた危機対応業務の対象に追加した。財務省、中小企業庁及び農林水産省の連名で指定金融機関に対して同内容の通知文書を発出。（5月29日）
- ・口永良部島（新岳）噴火に係る災害及び被災地域（鹿児島県熊毛郡屋久島町）について、経済産業大臣が中小企業信用保険法第2条第5項第4号の規定に基づく指定を決定した。（5月29日）

## (10) 国土交通省の対応

### <<対応体制>>

- ・国土交通本省非常体制（5月29日10:08）
- ・第1回幹部会議開催（大臣指示）（5月29日12:10）
- ・第2回対策本部会議開催（5月29日14:50）
- ・第3回対策本部会議開催（5月30日10:30）
- ・うえの政務官が現地入りし鹿児島県知事と面談等を実施（5月30日12:00）

### <<リエゾン（情報連絡要員）派遣>>

- ・海上保安庁より1県1町へ、のべ7人・日派遣（5月29～30日）。
- ・気象庁より1県1町へ、のべ7人・日派遣（5月29～30日）。
- ・九州地方整備局より1県1町へ、のべ11人・日派遣（5月29～30日）。
- ・九州運輸局より1県へ、のべ4人・日派遣（5月29～30日）。

### <<TEC-FORCE の派遣>>

- ・九州地方整備局より、災害対策用ヘリコプターによる上空からの被災状況調査、映像配信、海煌による資機材運搬、情報収集のため、のべ19人・日派遣（5月29～30日）。

### <<防災ヘリコプターによる状況調査>>

- ・九州地方整備局災害対策用ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査をTEC-FORCE及び福岡管区气象台で実施（5/29）。火山灰及び火砕流の分布状況について確認。
- ・九州地方整備局災害対策用ヘリコプター（鹿児島空港8:23離陸）及び四国・中国地方整備局災害対策用ヘリコプター（鹿児島空港12:00離陸予定）による口永良部



島上空からの調査を TEC-FORCE で実施予定 (5/30)。

<<災害対策用機械等出動状況>> (5月30日 13:00 現在)

整備局名	出動先	出動理由	機械名	台数	状況	期間
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	火山監視	Ku-SAT	1	稼働中	5/29～
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	現地支援	情報収集車	1	待機中	5/30～
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	現地支援	待機支援車	1	移動中	5/30～

(11) 財務省の対応

- ・口永良部島（新岳）噴火に係る災害を危機認定し、日本政策金融公庫から指定金融機関（日本政策投資銀行、商工組合中央金庫）を通じた危機対応融資の対象に追加、財務省、中小企業庁及び農林水産省の連名で指定金融機関に対して同内容の通知文書を発出（5月29日）
- ・災害救助法の適用決定を踏まえ、鹿児島県に係る被災中小企業者等への対応として、窓口における親身な対応、資金の円滑な融通等を要請する通知文書を、財務省・厚労省・中企庁の連名で日本政策金融公庫等に対して発出（5月29日）

(12) 国土地理院の対応

- ・過去の空中写真および災害対策用図を関係機関へ提供（5月29日）
- ・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真を撮影（5月29日）
- ・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真を関係機関へ提供（5月29日）
- ・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真をホームページで公開（5月30日）
- ・人工衛星（だいち2号）データを用いて口永良部島の地表の状態の変化を面的に把握しホームページで公開（5月30日）

URL : <http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/h27-kuchinoerabu-index.html>

(13) 気象庁の対応

- ・気象庁本庁非常体制（5月29日 10:07）
- ・記者会見（5月29日 11:30）
- ・気象庁災害対策本部会議を開催（5月29日 13:30、18:00）
- ・九州地方整備局、鹿児島県の協力により、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が上空からの観測を実施（5月29日 11:10、30日 06:40）
- ・鹿児島県庁及び屋久島町役場に職員を派遣（5月29日～）
- ・復旧担当者・被災者向け気象支援資料の提供（5月29日～、毎日5時、11時、17時頃更新）
- ・気象庁ホームページに口永良部島噴火の関連情報ポータルサイトを開設（5月29日）

## 7. 関係地方公共団体の対応等

### (1) 鹿児島県の対応

- ・平成 27 年度第 1 回口之永良部島火山防災連絡会を開催（5 月 23 日 16:00）  
（参加機関：鹿児島県、県警、海上保安庁、自衛隊、屋久島町、熊毛地区消防組合等）
- ・災害対策本部設置（5 月 29 日 10:07）  
※平成 26 年 8 月 3 日に設置した災害警戒本部から改組
- ・島民約 120 名が避難所へ避難したことを確認、湯向地区の住民が現在避難所へ移動（5 月 29 日 12:10）
- ・湯向地区の住民については、海上保安庁の船舶により避難予定（5 月 29 日 13:08）
- ・屋久島町宮之浦に避難所 3 か所（縄文の苑、宮之浦公民館、老人憩の家）を設置（5 月 29 日 15:06）
- ・島内住民及び滞在者の全員避難済を確認（5 月 29 日 15:41）
- ・熊毛地区消防組合消防本部 14 名が島内の川西地区、川東地区を検索し残留者なしを確認し役場職員と共に撤収（5 月 29 日 16:30）

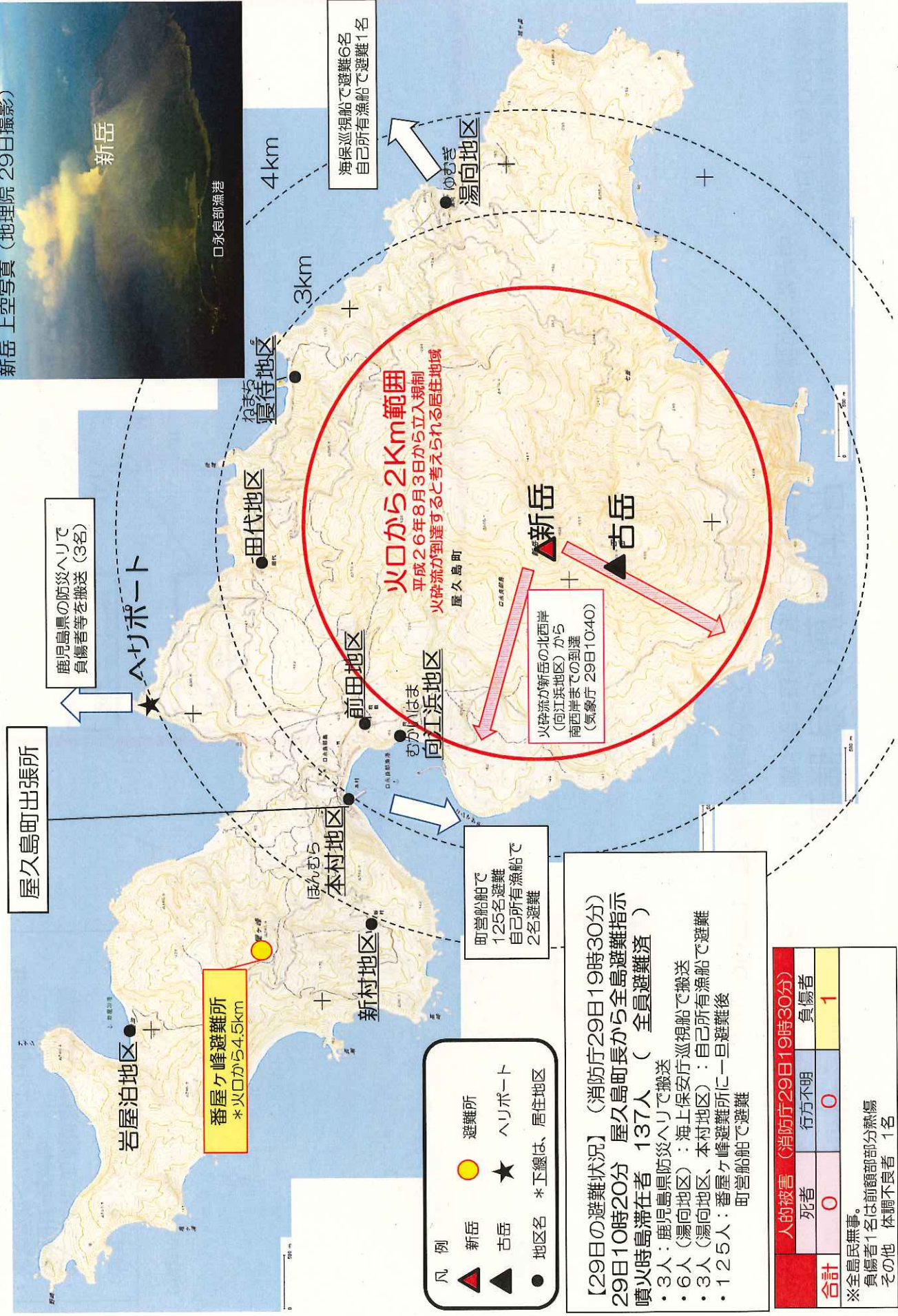
### (2) 屋久島町の対応

- ・災害対策本部設置（5 月 29 日 10:07）※平成 26 年 8 月 3 日より継続
- ・住民避難支援等を実施

### (3) その他（内閣府情報先遣チーム情報：5 月 29 日 15:00 現在）

- ・陸上自衛隊 6 名が屋久島の避難所において避難支援を実施中

平成27年05月30日16時00分 平成27年5月29日 口永良部島の噴火状況等  
 内閣府 (防災担当) 作成  
 平成27年5月29日09時59分噴火・10時07分噴火警戒レベル5に引き上げ (気象庁)



平成27年5月29日口之永良部島の噴火状況等  
05月30日16時00分時点

内閣府（防災担当）作成  
鹿児島県屋久島町発表情報  
30日14時00分時点

## 避難者の避難状況

- ・噴火時島滞在者137名（このほか、噴火時に島外に所在していた島民1名が避難所に滞在中）
- ・避難所の退避者数：69人
- ・その他の避難者については、屋久島の親戚や知人宅、ホテル等で避難。



屋久島町役場

老人憩いの家  
26人

宮之浦公民館  
18人

屋久島福祉センター  
[縄文の苑]  
25人

凡例  
避難所

【地図使用承〇昭文社第56G029号】

### （参考）避難所の状況

- ・各避難所に町職員を4名ずつ配置  
炊き出しを実施
- ・避難所近くのホテルでお風呂の提供
- ・県から保健師2名派遣。  
避難所3か所を巡回し、  
避難者の健康状態を把握



地図使用承〇昭文社第56G029号